

# 札幌地区労連ニュース

〈発行〉  
札幌地区労働組合総連合  
発行者 木村 俊二  
札幌市東区北9条東1丁目2-22  
TEL557-8481 FAX557-8482

教育予算増額、少人数  
学級実現をめざし教育全  
国署名に毎年取り組んで  
いるゆきとどいた教育を  
すめる札幌・石狩連絡  
会。新代表に木村俊二、  
地区労連議長をむかえて、  
今年は国への意見書採択  
を迫る陳情に取り組みま  
した。

陳情は「教職員未配置  
問題の改善」「少人数学  
級のさらなる前進」「特  
別支援学校の過大過密解  
消及び特別支援学級の編  
成基準の改善」を求める  
3本。

事務局の高教組札幌支  
部が8月10日に札幌市・  
北広島市・江別市・当別  
町・石狩市の議会事務局  
に意見書を提出しました。

佐賀事務局長の  
労組探訪 第1回



一回の会議で、  
院支部 勤医労中央病  
部は意見を  
て、札幌地区労連佐賀  
事務局長が自ら加盟組  
合を訪問・交流し、活  
動状況を紹介します。

勤医労中央病  
院支部

勤医労中病支部の執  
行委員会にお邪魔しま  
した。会議は18時30分  
スタートで会場とZO  
OMを併用。経過報告は文書が基

本。タイヤー2台を駆  
使して13項目の議題が  
効率的に話し合われて  
いました。また職場を  
使ったケアワーカー集  
会の企画や中央行動の  
参加など、職場要求の  
視点が一貫していまし  
ました。時節柄、年末一時  
金の戦術としてリアリ  
ティーをもつてストラ  
イキの議論が交わされ  
ていました。

メ表紙にあつた、「一  
回の会議で最低一  
回意見を言う」という  
「グラウンドルール  
(事前の取り決め)」



28日に、3本すべての陳  
情を採択し、国へ意見書  
提出を決定しました。

国が教育予算を増やす  
ために陳情書を提出しま  
した。そのうち石狩市が9月  
22日に、3本すべての陳  
情を採択し、国へ意見書  
提出を決定しました。

## 石狩市・北広島市で意見書採択

ことへの地方自治体の要  
求の根深さを感じ取ること  
ができました。

札幌・石狩連絡会では  
残る自治体へ地区労連と

共同して、11月に自治体  
訪問キャラバンを実施し  
ます。署名にご協力ください。  
(高教組札幌支部・北村  
亮二)

## 「あっせん制度」ってなに？まずは揉めてから

### 地区労連が労働委員会と懇談

顧問赤坂さんのお力も  
お借りし、北海道労働委  
員会へ行き詳しく制度に  
について聞いてきました。

労働委員会へ来る相談件  
数は前年度は140件。申  
し立て件数は12件。

まず「あっせん」とは労  
働者(従業員)と会社と  
の間で起こつた労働トラ  
ブルについて、専門家が  
間に入り、話し合いによつ  
て解決するための制度で  
す。

不当解雇、残業代請求、  
ハラスメントなど、多く  
の労働問題が対象となり、  
労使間の直接の話し合い  
では解決が難しい場合に

活用されています(不満  
があるだけではなく、労  
働者又は使用者が相手方  
に対し主張や要望を伝え  
たり、無視された時にあつ  
せんを申請出来ます)。

あっせんは、労働者側が  
あっせん機関を選択して  
申請するもので、取り扱  
い機関は、①労働局の紛  
争調整委員会と、②労働  
委員会の二つがあります。

今回は②の労働委員会の  
個別の労使紛争のあっせ  
んです。

労働問題に詳しいあつ  
せん員が、労使双方から  
話を聞き問題点を整理し  
た上で助言などをていだ  
しました。

# 地区労連新役員紹介 No2

8月27日に開催された第35会定期大会では、議長・事務局長をはじめ、世代交代も大きくすみました。順次、役員を紹介します。今回は新任幹事を紹介します。

未来に明るい兆しが  
見えるような活動を



未来に明るい兆しが  
見えるような活動を  
幹事 津崎雅美

会定期大会では、議長・事  
人きくすすみました。順次、  
仕幹事を紹介します。

士の強い結びつきと思われる心を感じる取り組みになりました。この行動から寄り添い合える仲間といふ大きな財産を得ることができました。関わる人の未未明るい兆しが見えるような活動をしたいと私は思っています。これからは地域や社会、他の労組にも着目し可能性を摸索していくことが楽しみです。未熟なため至らない点も多いと思いますが精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願ひします。

職場環境を良くするために、  
アフターフラッシュの最も強い味方

職場環境を良くするために、労働組合が最強の味方

はじめまして、この度  
新幹事として就任いたしま  
した津崎雅美です。私は、  
小さな診療所の看護師と  
して働いています。

ハラスメント対策でセミナー  
もっと「あせん」活用を！

中央労働員会、北海道労働委員会主催、北海道労働局後援の2023年「労使セミナー」が10月16日に開催されました。

が基調講演を行いました。その後、事例紹介として北海道労働委員会の公益委員労働者委員、使用者委員から報告がありました。

パワーハラ防止措置義務が強まり社会的に「人格否定につながるパワーハラ」をなくす対策強化を呼びかけ、企業にとつてもパワーハラ防止が社会的な評価につながると積極的な関与を促しました。

労使紛争に関する制度と  
紛争の解決をサポートする  
機関である「労働委員会」  
について、労使関係の認識  
を深めることを目的に毎年  
開催されています。

今年のセミナーでは、「職場のハラスメント対策  
（労働施策総合推進法（パ  
ワーラ防止対策義務化）と  
その後の状況」と題し、原昌登氏（成蹊大学法学部  
法律科教授・中央労働委員



地区労連に寄せられる相談でも、パワーハラは8割を超えるほど増えており、行政や労働者・労働組合だけではなく企業も一緒に根絶する社会的な要請が求められており、今回のセミナーには企業からも参加があり、意義があると思いました。

諦めずに声をあげよう――  
さよなら原発北海道集会

1点目は、「働くルール」を知ろう！知識を武器に身を守ろう」ということを改調しました。結の労働相談の事例などを紹介し、労働基準法や労働契約法などの基本を知ることが大事だと言った。サービス残業や有給休暇がとれないなど法律で決められた権利行使できない労働者が多い。自分の身を守るためにも知識は必要と訴えました。

3点目として職場環境の改善を図るための最強の味方は「労働組合」の存在だと訴えました。法律で使用者が対等に労働条件を決めることが出来ることになつてゐるが、実際の職場では使用者が圧倒的に強い立場になつていてはなかで、労働組合は対等の立場を保つ最強の味方だと言ふべき、一人で悩まずに職場にある組合に加入するか、職場に組合がない場合は人でも加入できる「個人加盟」に、と訴えました。

生活相談のミニ講座では「生活保護は権利です。活用しましょう」と題し、北海道生活と健康を守る会の石橋妙美事務局長が講演しました。



「STOP再稼働！さよなら原発北海道集会」が、10月9日、大通西6丁目広場で開催されました。呼びかけ人の北海道大学名誉教授の小野有五氏は泊原発の再稼働が進められているが司法も含めあきらめずに頑張りましょうとあいさつ。北海道がんセンターナンバーキャンペーンの西尾正道氏は日本の医療における放射線の知識・情報はデータベースだと指摘し

札幌地区労連と北海道原水協は国連軍縮週間の10月25日、JR札幌駅南口広場で宣伝行動を行いました。

マイクを握った、木村地区労連議長は、中東紛争についてふれ、イスラム組織ハマスのイスラエル攻撃と人質は国際法違反だと批判。同時にその報復としてイスラエルのガザ侵攻は、民間人を多数虐殺しており国際法違反であり断固糾弾すると厳しく抗議しました。

また、紛争は武力では解決しないと述べ、イスラエルが核保有国であり核使用も懸念されると停戦を呼びかけました。唯一の戦争被爆国で憲法9条を持つ日本政府は停戦のイニシアティブをとるよう訴えました。

宣伝行動では新婦人や民青道委員会の仲間からも訴えがあり、ロシアによるウクライナ侵略が続くなか、

いっそう核兵器廃絶と戦争反対の運動を広げようと呼びかけました。道行く市民や労働者がチラシを受けとったり、署名協力するなど関心を寄せました。

札幌地区労連からも佐賀事務局長や田中、奥田両幹事などが参加しビラ配布や署名の協力をを行い核兵器廃絶を市民にアピールしました。

# 国連軍縮週間宣伝！

全道の皆さんと一緒に頑張  
ると決意を述べました。  
原子力資料情報室の高野  
聰氏は寿都町の文献調査強  
行は、平穏に暮らせる生活  
権が侵害されたことが問題  
の本質だと述べ、人間の権

ちの音頭で「再稼働反対」とコールし、パレードを行いました。400人が参加しました。

2点目は、「職場のルールを点検しよう」と述べ、就業規則や雇用契約書の要性を訴えました。使用者が就業規則に書いていない「不利益変更」を強要したり、ハローワークの求人情報や雇用契約書と違う労働条件を押しつけようとしたときは、もう一度就業規則や雇用契約書をチェックすることが大事だと強調しました。

放射線の恐ろしさと原発反対を訴えました。「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」の鎌谷和幸氏は先日行われた寿都町選挙で原発反対派が落選したこと、特に触れ「私たちの運動を支えてきた候補を議会に送り出せなかつたことが悔やんでも悔やみきれない」と述べ2600人ほどの小さな町で起きていることは全道の問題と考えている。

利と尊厳の回復や責任を求める必要があるとし、「これからも核のない世界」、これ以上核のゴミを出すしない文明をつくりだすために活動していきます」と決意を表明しました。